

「小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 2024」の策定にあたって

1. ガイドライン策定の目的

小児・思春期発症糖尿病を持つ人たちは生涯にわたり長期の療養生活を送るため、保育園・幼稚園、学校での生活、進学、就職、結婚、妊娠、子育て、壮年期、老年期といったライフステージに応じた支援が必要となる。そこで「国際小児思春期糖尿病学会 (ISPAD) コンセンサス・ガイドライン 2018 (一部同 2022)」に準拠しつつ、また日本糖尿病学会 編・著「糖尿病診療ガイドライン」も参考とし、よりわが国の小児・思春期発症糖尿病に即応したコンセンサス・ガイドラインを作成した。

2. 対象とする疾患・病態

小児・思春期発症糖尿病全般の教科書的基礎知識を含めた総論、1 型糖尿病の診療、2 型糖尿病の診療、その他の糖尿病の診療、患児・家族の支援、移植・再生医療、ケアのシステム化について扱っている。

3. ガイドラインの利用者

小児・思春期発症糖尿病の診療に携わる医師、看護師、心理療法士、薬剤師、臨床検査技師などのメディカルスタッフを主に想定している。

4. ガイドライン策定の手順

(1) 策定の基準

各項目とも「CQ あるいは Q」を冒頭に示し、それに対する「ステートメントあるいはポイント」、「解説」、「引用文献」、「参考とした資料」を記載する形式とした。「CQ」は推奨度 (推奨グレード) を問う疑問として回答が可能な臨床的疑問、「Q」は「CQ」以外の臨床的疑問 (推奨グレードは付さない) として区別した。CQ に対するステートメントでは、「推奨グレード」とその推奨グレードに対するガイドライン作成委員会における「合意率」を記載した。「推奨グレード」は「グレード A (強い推奨)」、「グレード B (弱い推奨)」、「グレード U (推奨するだけの根拠が明確でない)」の 3 段階とした。合意率はガイドライン作成委員会 (編集コアメンバー、執筆者) による投票によって決定し、70% 以上の合意をもって採択した。エビデンスレベルを伴わないものは「参考とした資料」として引用文献とは区別した。

ステートメントに引用されている文献については CQ ごとに採用基準を記載し、併せて「論文コード (研究デザイン・エビデンスレベルも併記)」、「対象」、「方法」、「結果」を記載した「アブストラクトテーブル」を記載した。その他、メタ解析 (meta-analysis : MA)、系統的レビュー (systematic review : SR)、ランダム化比較試験 (randomized controlled trial : RCT) の文献に関してはバイアスリスク、臨床的疑問への直接回答、研究結果の一致、出版バイアスの有無について記載した。

また、ステートメントごとに抽出した PICO の概略と、推奨グレード判定の説明として、推奨グレード決定のための 4 項目 (①エビデンス総体の確実性、②益害バランス、③患者の価

表 1 エビデンスレベルの分類

デザイン名称	英語／説明	エビデンスレベル
①MA/SR	Meta-analysis (メタ解析) /Systematic review (系統的レビュー) 質の高い MA/SR (下記をすべて満たす) ・バイアスリスクは低い ・臨床疑問に直接答えている ・研究結果はほぼ一致している ・誤差は小さく精確な結果である ・出版バイアスは疑われない	1+
	質の低い MA/SR 上記 5 項目のうち満たさない項目がある	2
②RCT	Randomized controlled trial (ランダム化比較試験) 質の高い RCT (下記をすべて満たす) ・バイアスリスクは低い ・臨床疑問に直接答えている ・誤差は小さく精確な結果である	1
	質の低い RCT 上記 3 項目のうち満たさない項目がある	2
③前向きコホート	Prospective cohort study	2
④事前設定 RCT サブ解析	Pre-specified sub-analysis of RCT	2
⑤後ろ向きコホート	Retrospective cohort study	3
⑥ケースコントロール	Case-control study	3
⑦事後的 RCT サブ解析	Post-hoc sub-analysis of RCT	3
⑧単群試験	Single-arm (Self-controlled) trial	3
⑨横断研究	Cross-sectional study	3
⑩症例集積・報告	Case series/Case report	3

値観、④費用)の判定と判定根拠を記載した。

エビデンスレベルは、表 1 のように 4 段階で記載した。

5. ガイドライン策定のプロセス

本ガイドラインの策定においては、ガイドライン作成委員会の編集コアメンバーにより、基本方針の決定、および全体的な内容調整を行った。

その後、各項目の執筆者を日本糖尿病学会小児糖尿病委員会、および日本小児内分泌学会糖代謝委員会の委員を中心とするこの分野の専門家より選定した。執筆者はその執筆協力者、SR 担当者とともに、CQ・Q の策定および CQ・Q に基づく系統的文献検索、系統的レビュー (SR)、ステートメント・解説・アブストラクトテーブルの作成を行った。CQ におけるすべてのステートメントの内容や推奨グレードの妥当性については投票を行って決定した。

また、日本糖尿病学会小児糖尿病委員会、および日本小児内分泌学会糖代謝委員会の委員を中心に評価委員を選定し、本ガイドラインにおける記載内容ならびに採用エビデンスの最新性、正確性、妥当性などについて評価を行った。

また、外部評価として、日本糖尿病協会によって本ガイドラインにおける記載内容ならびに採用エビデンスの最新性、正確性、妥当性などについて評価を行った。

6. ガイドライン策定の経過

各段階において全体の基本方針にかかわる事項あるいは内容の整合性などに関して、策定委員会ならびに編集コアメンバー会議を適宜開催して調整を図った(表2)。

表2 ガイドライン策定の経過

年月	経過
2021年3月6日	編集コアメンバー会議開催 ・ガイドラインの名称、基本方針、組織構成などについての検討
4月10日	編集コアメンバー会議開催 ・章立て、組織構成などについての検討
5月29日	編集コアメンバー会議開催 ・執筆者・評価委員の構成、「糖尿病診療ガイドライン」との内容調整についての検討
7月31日	策定委員会開催 ・ガイドラインの位置づけ、CQ・Qの策定方針、文献検索・系統的レビュー(SR)の進め方、編集体制などについての検討
8～9月	CQ・Qの検討・評価
10月24日	編集コアメンバー会議開催 ・CQ・Q案の検討 ・「糖尿病診療ガイドライン」との内容調整についての検討
11月～2022年2月	CQ・Q案の検討・評価
2022年3月	CQ・Qの決定
3～8月	文献検索・収集・評価、アブストラクトテーブルの作成、エビデンスレベルの付記、ステートメント/ポイント・解説の執筆【一次原稿】
9～10月	評価委員による一次原稿の評価
11～12月	上記評価後の一次原稿の修正【二次原稿】
2023年1～2月	編集コアメンバーによる二次原稿の全体評価
2月26日	編集コアメンバー会議開催 ・二次原稿の全体評価内容の検討 ・推奨グレードの決定方法の検討
3月	上記評価・会議後の二次原稿の修正【三次原稿】
4～5月	推奨グレードの投票(メール投票)
5～6月	推奨グレード投票後の三次原稿の修正【四次原稿】
7～8月	編集コアメンバーによる四次原稿の全体評価
9月	パブリックコメント・外部評価
10月9日	編集コアメンバー会議開催 ・パブリックコメント・外部評価・全体評価内容の検討
10月	パブリックコメント・外部評価後の四次原稿の修正【五次原稿＝最終原稿】
2024年1～3月	校正刷りの校閲(執筆者、評価委員、学会理事)
4月	発行

7. 本ガイドラインの使用法

本ガイドラインは臨床医が適切かつ妥当な診療を行うための臨床的判断を支援する目的で、現時点における医学的知見に基づいて策定されたものである。個々の患者の診療は、その患者のすべての臨床データをもとに主治医によって個別に決定がなされるべきものである。したがって、本ガイドラインは医師の裁量を拘束するものではない。また、本ガイドラインは、すべての患者に適用されるものではなく、患者の状態を正確に把握したうえで、それぞれの診療の現場で参考とされるために策定されたものである。ガイドライン作成委員会、および日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会は本ガイドラインの記載内容については責任を負うが、個々の診療行為については責任を負わない。また、本ガイドラインの内容は医療訴訟対策などの資料となるものではない。

8. 本ガイドラインの策定費用

本ガイドラインの策定はすべて日本糖尿病学会と日本小児内分泌学会が費用を負担しており、他企業からの資金提供はない。

9. 利益相反 (COI) について

1) 本ガイドラインでは、策定・評価にかかわった各委員（執筆者、執筆協力者、SR 担当者、評価委員）の糖尿病および関連疾患に関与する企業との間の COI につき開示を行った（xiii～xix 頁参照）。各委員から申告を得て問題となる可能性がある場合は執筆や投票への関与を制限した。

2) 関連団体による外部評価や日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会からの評価委員の参加によって意見の偏りを防ぎ、公平性を担保するように努めた。さらに出版前のパブリックコメントを両学会より受け付けることにより幅広い意見を収集した。

10. ガイドライン普及と活用促進について

書籍として出版するとともに、日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会のホームページにおいても公開を行う予定である。

11. 改訂の時期

基本的に国際小児思春期糖尿病学会 (ISPAD) のガイドラインに準拠しており、日本糖尿病学会 編・著「糖尿病診療ガイドライン」も参考としている。そこで、小児・思春期糖尿病に関する日本における新たなエビデンスを確認できる 3～4 年ごとを目安に改訂を検討する予定である。

2024 年 4 月

日本糖尿病学会 小児糖尿病委員会
日本小児内分泌学会 糖代謝委員会

利益相反（COI）の開示

日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会「小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 2024」作成委員会では、編集コアメンバー・執筆者・評価委員・執筆協力者・SR 担当者と糖尿病および関連疾患に関与する企業との間の経済的関係につき、以下の基準で編集コアメンバー・執筆者・評価委員・執筆協力者・SR 担当者より過去 3 年間の利益相反状況の申告を得た。

＜利益相反開示項目＞ 該当する場合は具体的な企業名（団体名）を記載。該当しない場合は「－」を記載する。

A. 申告者の申告事項

1. 企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職の有無と報酬額（1 つの企業・団体からの報酬額が年間 100 万円以上）
2. 株の保有と、その株式から得られる利益（1 つの企業の年間の利益が 100 万円以上、あるいは当該株式の 5% 以上を保有する場合）
3. 企業や営利を目的とした団体から支払われた特許権使用料（1 つの特許権使用料が年間 100 万円以上）
4. 企業や営利を目的とした団体から会議の出席（発表、助言など）に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当、講演料など（1 つの企業・団体からの年間の講演料が合計 50 万円以上）
5. 企業や営利を目的とした団体がパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料（1 つの企業・団体からの年間の原稿料が合計 50 万円以上）
6. 企業や営利を目的とした団体が提供する研究費（1 つの企業・団体から医学系研究（共同研究、受託研究、治験など）に対して申告者が実質的に使途を決定し得る研究契約金の総額が年間 100 万円以上）
7. 企業や営利を目的とした団体が提供する奨学（奨励）寄附金（1 つの企業・団体から申告者個人または申告者が所属する講座・分野または研究室に対して申告者が実質的に使途を決定し得る寄附金の総額が年間 100 万円以上）
8. 企業などが提供する寄附講座に申告者らが所属している場合
9. 研究とは直接に関係しない旅行、贈答品などの提供（1 つの企業・団体から受けた報酬総額が年間 5 万円以上）

B. 申告者の配偶者、一親等内の親族、または収入・財産を共有する者の申告事項

1. 企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職の有無と報酬額（1 つの企業・団体からの報酬額が年間 100 万円以上）
2. 株の保有と、その株式から得られる利益（1 つの企業の年間の利益が 100 万円以上、あるいは当該株式の 5% 以上を有する場合）
3. 企業や営利を目的とした団体から支払われた特許権使用料（1 つの特許権使用料が年間 100 万円以上）

C. 申告者の所属する研究機関・部門の長にかかる institutional COI 開示事項

1. 企業や営利を目的とした団体が提供する研究費（1 つの企業・団体からの研究費が年間 1000 万円以上）
2. 企業や営利を目的とした団体が提供する寄附金（1 つの企業・団体からの寄附金が年間 200 万円以上）
3. その他（株式保有、特許使用料、あるいは投資など）

編集コアメンバー・執筆者・評価委員・執筆協力者・SR 担当者はすべて「小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 2024」の内容に関して、糖尿病および関連疾患の医療・医学の専門家あるいは専門医として、科学的および医学的公正さと妥当性を担保し、対象となる疾患の診療レベルの向上、対象患者の健康寿命の延伸・QOL の向上を旨として編集作業を行った。利益相反の扱いに関しては、内科系関連学会の「医学系研究の利益相反（COI）に関する共通指針」に従った。

申告された企業名は以下の通りである。

対象期間は 2021 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日。

法人名は省略。企業名は 2023 年 12 月時点の名称とし、開示期間内に社名変更があった企業は旧社名を括弧内に記載。（50 音順）

〔編〕編集コアメンバー、〔執〕執筆者、〔評〕評価委員、〔協〕執筆協力者、〔S〕SR 担当者

利益相反項目の開示

氏名	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	A-9	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	
赤井裕輝【評】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
阿比留教生【評】	－	－	－	アステラス製薬、日本イーライリリー、ノボノルディスクファーマ	－	アステラス製薬、大正製薬	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
綾部匡之【評】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
荒木栄一【評】	－	－	－	MSD、興和、住友ファーマ（大日本住友製薬）、ノボノルディスクファーマ	－	－	住友ファーマ（大日本住友製薬）、田辺三菱製薬、ノボノルディスクファーマ、ロシュ・ダイアグノスティックス	小野薬品工業、テルモ
	－	－	－	－	－	－	－	－
石田 均【評】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
伊藤善也【執】 【評】	－	－	－	ノボノルディスクファーマ	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
岩崎直子【評】	－	－	－	－	－	第一三共	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
臼田里香	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
宇都宮朱里【S】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
宇都宮一典【評】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
浦上達彦【編】 【執】	－	－	－	DEXCOM、JCR ファーマ、アボットジャパン、ノボノルディスクファーマ	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
繪本正憲【評】	－	－	－	アストラゼネカ、小野薬品工業、協和キリン、サノフィ、住友ファーマ（大日本住友製薬）、日本ベーリンガーインゲルハイム、ノボノルディスクファーマ	－	協和キリン、田辺三菱製薬	エーザイ、協和キリン、住友ファーマ（大日本住友製薬）、田辺三菱製薬、中外製薬、日本ベーリンガーインゲルハイム、バイエル薬品	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
大澤謙三【評】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
大杉康司【協】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
大津成之【執】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
小川洋平【執】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
桶田俊光【評】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
長船健二【執】	リジェネフロ	－	－	－	－	リジェネフロ	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－
恩田美湖【執】	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－

氏名	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	A-9	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	
加藤 研 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
川村智行 [編] [執]	—	—	—	テルモ、日本イーライリ リー、日本メドトロニック、 ノボノルディスクファーマ	テルモ、日本イー ライリリー、日本 メドトロニック、 ノボノルディスク ファーマ	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
菊池 透 [編] [執]	—	—	—	ノボノルディスクファーマ	エムティーアイ	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
菊池信行 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
木村那智 [評]	—	—	—	日本イーライリリー、ノボ ノルディスクファーマ	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
黒田暁生 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
剣持 敬 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
坂口一彦 [評]	—	—	—	サノフィ、住友ファーマ（大 日本住友製薬）、日本イー ライリリー、ノバルティス ファーマ、ノボノルディス クファーマ	—	—	大塚製薬、住友 ファーマ（大日 本住友製薬）、 ノバルティス ファーマ	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
三森愛美 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
志賀健太郎 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
島田 朗 [編] [評]	—	—	—	アボットジャパン、サノ フィ、住友ファーマ（大日 本住友製薬）、テルモ、日 本イーライリリー、ノボノ ルディスクファーマ	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
神野和彦 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
杉原茂孝 [編] [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
鈴木 滋 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
鈴木潤一 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
鈴木浩明 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
勢井友香 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
清野弘明 [評]	—	—	—	MSD、アステラス製薬、 サノフィ、サノフィアベン ティス、住友ファーマ（大 日本住友製薬）、日本イー ライリリー、ノバルティス ファーマ	—	YL バイオロジク ス、サノフィアベ ンティス、田辺三 菱製薬、日本ペー リンガーインゲル ハイム、ノバル ティスファーマ、 ノボノルディスク ファーマ	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
高木 聡 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
高田浩史 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—

氏名	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	A-9	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	
高橋和眞 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
高橋利和 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
高谷具純 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
田久保憲行 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
竹本幸司 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
田嶋尚子 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
立川恵美子 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
谷澤幸生 [評]	—	—	—	住友ファーマ（大日本住友製薬）、ノボノルディスクファーマ	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
壺井史奈 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
豊田太郎 [執]	オリヅルセラピューティクス	—	—	—	—	オリヅルセラピューティクス、武田薬品工業	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
中村二郎 [評]	—	—	—	小野薬品工業、第一三共、大正製薬、ノボノルディスクファーマ	—	—	—	アボットジャパン、小野薬品工業、興和、三和化学研究所、テルモ
	—	—	—	—	—	—	—	—
楳崎晃史 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
難波光義 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
西牧謙吾 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
西村理明 [編] [執]	—	—	—	MSD、アステラス製薬、アストラゼネカ、アボットジャパン、小野薬品工業、キッセイ薬品工業、興和、サノフィ、住友ファーマ（大日本住友製薬）、帝人ファーマ、日本イーライリリー、日本ベーリンガーインゲルハイム、日本メドトロニック、ノボノルディスクファーマ	—	三菱電機	アボットジャパン、小野薬品工業、住友ファーマ（大日本住友製薬）、大正製薬、日本ベーリンガーインゲルハイム	—
	—	M.E.I	—	—	—	—	—	—
沼沢慶太 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
花木啓一 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
馬場園哲也 [評]	—	—	—	—	—	—	日本ベーリンガーインゲルハイム、ノバルティスファーマ	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
濱田淳平 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—

氏名	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	A-9	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	
春名英典 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
平井洋生 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
弘世貴久 [評]	—	—	—	MSD、アストラゼネカ、アボットジャパン、小野薬品工業、キッセイ薬品工業、興和、サノフィ、住友ファーマ（大日本住友製薬）、田辺三菱製薬、日本イーライリリー、ノボノルディスクファーマ	—	—	住友ファーマ（大日本住友製薬）、田辺三菱製薬、日本ベーリンガーインゲルハイム	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
広瀬正和 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
廣田勇士 [評]	—	—	—	アボットジャパン、サノフィ、住友ファーマ（大日本住友製薬）、テルモ、日本イーライリリー、ノボノルディスクファーマ	—	協和キリン、住友ファーマ（大日本住友製薬）、日本ベーリンガーインゲルハイム、日本メドトロニック	アボットジャパン	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
布川香織 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
藤原幾磨 [執]	—	—	—	—	—	ファイザー	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
保科早里 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
母坪智行 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
前田貴宏 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
牧野耕一 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
松井克之 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
松久宗英 [評]	—	—	—	アボットジャパン、オリヅルセラピューティクス、協和キリン、サノフィ、住友ファーマ（大日本住友製薬）、テルモ、日本イーライリリー、日本ベーリンガーインゲルハイム、ノボノルディスクファーマ	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
松本さおり [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
松本慎一 [執]	大塚製薬工場	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
三浦順之助 [編][執]	—	—	—	ノボノルディスクファーマ	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
水野晴夫 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
南 昌江 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
都 研一 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
虫本雄一 [協]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—

氏名	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	A-9	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	
望月美恵 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
望月翔太 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
守田美和 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
山内敏正 [評]	—	—	—	MSD、住友ファーマ（大日本住友製薬）、日本イーライリリー、日本ペーリンガーインゲルハイム、ノボノルディスクファーマ	—	興和、サノフィ、日東紡績、ニプロ、ミノファーズ製薬	住友ファーマ（大日本住友製薬）、武田薬品工業、田辺三菱製薬	朝日生命保険相互会社、小野薬品工業、日本ペーリンガーインゲルハイム、ノボノルディスクファーマ
	—	—	—	—	—	—	—	—
倭 英司 [評]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
山本幸代 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
柚山眞彦 [S]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
横田一郎 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
依藤 亨 [執]	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—

日本糖尿病学会：組織としての利益相反項目の開示

日本糖尿病学会の事業活動における資金提供を受けた企業を記載する。
(対象期間は 2021 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日)

1. 日本糖尿病学会の事業活動に関連して、資金（寄付金等）を提供した企業名

①共催セミナー

DEXCOM, Life Scan Japan, MSD, Noster, アークレイマーケティング, 旭化成ファーマ, アステラス製薬, アストラゼネカ, アボットジャパン, エムベクタ (日本ベクトン・ディッキンソン), オート・クリニカル・ダイアグノスティックス, 大塚製薬, 小野薬品工業, キッセイ薬品工業, 協和キリン, 興和, 寿製薬, サノフィ, 三和化学研究所, 塩野義製薬, 神鋼環境ソリューション, 住友ファーマ (大日本住友製薬), 積水メディカル, 第一三共, 大正製薬, 武田薬品工業, 田辺三菱製薬, 帝人ファーマ, 帝人ヘルスケア, テルモ, 日機装, ニプロ, 日本イーライリリー, 日本ベーリンガーインゲルハイム, 日本メドトロニック, ノーベルファーマ, ノバルティスファーマ, ノボノルディスクファーマ, パイエル薬品, ファイザー, フクダ電子, 富士薬品, ミカレア, ミナリスメディカル, 明治, メディパルホールディングス, 持田製薬, ロシュ・ダイアグノスティックス, ロシュ DC ジャパン

②賛助会員

Life Scan Japan, MSD, Noster, PHC, アークレイマーケティング, アステラス製薬, アストラゼネカ, アボットジャパン, エスアールエル, エムベクタ (日本ベクトン・ディッキンソン), 小野薬品工業, 科研製薬, キッセイ薬品工業, 協和キリン, 興和, サノフィ, 三和化学研究所, 塩野義製薬, シスメックス, 住友ファーマ (大日本住友製薬), 積水メディカル, 第一三共, 大正製薬, 武田薬品工業, 田辺三菱製薬, 中外製薬, 帝人ファーマ, テルモ, 東ソー, ニプロ, 日本イーライリリー, 日本成人病予防協会, 日本たばこ産業, 日本ベーリンガーインゲルハイム, 日本メドトロニック, ノボノルディスクファーマ, ハーバー研究所 (H プラス B ライフサイエンス), 文光堂, 堀場製作所, ロシュ DC ジャパン

③研究助成

MSD, アステラス, アボットジャパン, サノフィ, 帝人ファーマ, 日本イーライリリー, 日本ベーリンガーインゲルハイム, ノボノルディスクファーマ

④顕彰制度

サノフィ, 日本イーライリリー, ノボノルディスクファーマ

2. 本書籍作成に際して、資金提供した企業名

なし

法人名は省略。企業名は 2023 年 12 月時点の名称とし、開示期間内に社名変更があった企業は旧社名を括弧内に記載。(50 音順)

日本小児内分泌学会：組織としての利益相反項目の開示

日本小児内分泌学会の事業活動における資金提供を受けた企業を記載する。
(対象期間は 2021 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日)

1. 日本小児内分泌学会の事業活動に関連して、資金（寄付金等）を提供した企業名

①共催セミナー

Ascendis Pharma, Inc., BioMarin Pharmaceutical Japan, DENIS ファーマ, JCR ファーマ, LSI メディエンス, アボットジャパン, アレクシオンファーマ, 協和キリン, コスミックコーポレーション, サンド, テルモ, 日本イーライリリー, 日本電子, 日本メドトロニック, ノーベルファーマ, ノボノルディスクファーマ, ファイザー, メディパルホールディングス, ロシュ・ダイアグノスティックス

②賛助会員

BioMarin Pharmaceutical Japan, JCR ファーマ, サンド, 武田薬品工業, 日本イーライリリー, ノボノルディスクファーマ, ファイザー, 森下仁丹

③研究助成

ノボノルディスクファーマ

④顕彰制度

ノボノルディスクファーマ

2. 本書籍作成に際して、資金提供した企業名

なし

法人名は省略。企業名は 2023 年 12 月時点の名称とし、開示期間内に社名変更があった企業は旧社名を括弧内に記載。(50 音順)